

視察（研修）報告書

令和6年11月3日

府中市議会議員 様

会派名 経政会
議員名 藤本秀範

日 時	令和6年10月31日（木）～令和6年11月1日（金）
視察（研修）先	全国市町村国際文化研修所（JIAM）
視察（研修）項目	第2回「防災と議員の役割」
参 加 者	藤本秀範
視察（研修）内容	〔1〕過去の災害の教訓をこれからに活かすために 講師：香川大学四国危機管理 教育・研究・地域連携推進機構地域強靱化研究センター 特命准教授 磯村千雅子 〔2〕平時の防災と議員の役割 講義と演習 〔3〕令和6年能登半島地震における対応と取組 講師：石川県珠洲市議会 副議長 川端 孝コーディネーター 〔4〕災害時、復旧、・復興期の議員の役割 講師：跡見学園女子大学観光コミュニティ学部 コミュニティデザイン学科 教授 鍵屋一 防災企画連合関西そなえ隊 幹事 湯井恵美子 ○研修のねらい：災害や復興期の事例から議員として何が出来 るのか住民とどのように関わって行くべきなのか？受講 者間で防災に関する現状や課題を共有しながら対策を討議 することで、防災に対する意識の向上を図ることが目的とす る。研修を踏まえ、平時からの防災に対する心構えや災害時 の対応を理解して議員としての大きな役割を理解すること も大きなねらいとなっている。

所 感	本研修の受講から防災の取り組みによる意義についてを学び段階を踏まえ意識向上へとつながった。まず、気象庁のデータ全国アメダス年間発生回数の推移を確認し、昨今の極端な気象の現象が有意に増加している現実が示された。次に過去の災害の教訓をこれから活かすためとして、阪神淡路大震災の事例から発生直後の公助には限界があり自助と共助の重要性を学ぶことが出来た。なかでも共助での救出者は77%ほどであり、そのうち8割以上が生存者による救助であったということ。この実態から住民全体で防災をボトムアップ形式で考える重要性を認識した。そのポイントとなるのが地区防災計画の策定である。その事例として岡山県津山市城西地区の防災計画と岡山県倉敷市川辺地区の黄色いタスキ大作戦が紹介された。とくに倉敷市真備町では、①遠慮・期待の壁②プライバシーの壁③日常・非日常の時間の壁が印象的であり近隣お声がけの障壁となるパターンを紹介された。共助の場面においていざいかにお声がけできるかはお互いの関係性を構築するとともに協力意識へと発展することをあらためて考えさせられた。また危機管理における3要素として①危機を予測する力②危機を予防する力③危機に対応する力、災害被害方程式として自然の外力X人口（被害を受ける範囲）X社会の脆弱性ということを知り災害による基礎要素について理解した。その後、岩手県大槌町の平野町長（当時総務部長）の東日本大震災の体験をもとに何が問題点か何を考えたらいいかグループごとに協議の場を設けた。全体として、いつ起こるかわからない想定外な災害発生リスクを少しでも回避するための備えと合わせ、公助である災害対策本部のあり方、共助である地区防災組織の在り方を理解し、それぞれ地域住民を巻き込んだ備えの必要性和個別避難計画といった避難の確実性を高める策定が備えであることが理解できた。大災害時における意識は議員としてではなく人として自分の安否→家族の安否→他者に対して何が出来るか救助対応に結びつける防災については今後も継続して考え続けなければならないそう捉えられた研修であった。
--------	---